福島の今を考える中高生たち

▲飯舘村のあんぽ柿の木。除染も終わり、食べることができるようになった。

▶かつて除去土壌の仮置き場だった土地。今は芝生を育ててゴルフの練習場やドッグランとして活用している。

福島をつなぐ旅 1日目

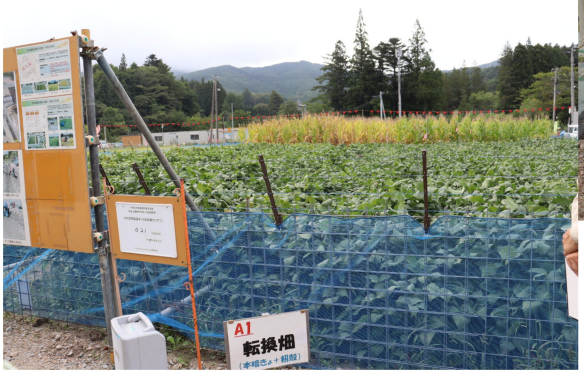
9月16日から18日まで環境省主催のイベント「福島、その先の環境へ。環境再生事業現地見学会」が行われている。本校からはGSクラスと新聞部生徒7名が参加する。京都教育大学附属京都小中学校、福島県立磐城桜が丘高校、安積高校、須賀川桐陽高校からも参加者があり、計20名の中高生が復興の現状を視察する。

初日の16日は伊達市霊山の旧仮置き場と飯舘村長泥地区の環境再生エリアを見学した。

伊達市霊山では旧仮置き場の所有者に旧仮置き場を案内してもらった。除去土が置かれてから中間貯蔵施設に移されるまでの経緯やこれからの土地活用について話していただいた。飯舘村長泥地区では、環境省の職員から除去土壌の再生利用について学んだ。除去土壌の処理方法や除去土壌の今後の活用について解説を受けた。その後、実際に除去土壌を使った野菜や飯舘村の名産品であるトルコキキョウの栽培試験場を見学した。学生たちは次々に質問を投げかけ、移動のバス内でも質疑応答が行われるなど、興味関心の強さを感じさせられた。

1日目の視察を終えた本校生は「覆土50cmだけで除去土壌の放射線を99%以上遮れると知り、驚いた」「覆土をかぶせなくても作物の放射線が基準値以下とは知らなかった」「仮置き場や中間貯蔵施設は地域の人々の思いがあってこそと感じた」などと語る。

除去土壌活用の可能性探る



▲実証実験を行っている農地の前で解説を聞く学生たち。長袖長ズボンの着用やヘルメット着用などが義務付けられており、物々しい雰囲気の中で視察した。

◀除去土壌を活用し、トルコキキョウの花や枝豆、飼料用トウモロコシの栽培をしている。

彦根東高校新聞

速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号